

正月だより

東澤山 菜流寺
 住職 武山清堂
 〒 421-2102 静岡市葵区油島 122
 電話 054-294-1215
 (電話は秘在寺へ転送されます)
 seido@hizaiji.net
 http://hizaiji.net/ (秘在寺)
 http://ashita-an.hizaiji.net/ (あした庵)

新春を迎え

檀信徒の皆様のご多幸をお祈り申し上げます



旧年中は大変お世話になりました。
 今年もどうぞよろしく
 お願い致します。

菜流寺の今年の行事予定をお知らせします。大勢の皆様に参加をお待ちしています。どうぞ菩提寺の活動をご支援下さい。

・新年の集い

一月十八(日) 午後二時より
 会費二千円

ご先祖にお参りし、お寺や檀徒との親睦を深める良い機会です、どうぞ皆さんご参加下さい。年末にご案内を配布してありますので、お手数を掛けますが組長さんは出欠をご連絡下さい。



・お彼岸の集い

三月十四日(土) 午後二時より

春彼岸供養会 ご先祖にお参りし、本山 妙心寺の布教師様の法話をお聞きします。後日お知らせを配布します。

・施餓鬼会

八月九日(日) 十時より

なお修正会祈禱(正月三が日)をした今年の菜流寺の「延命地藏菩薩」のお札を同封します。

京都 妙心寺宿坊「花園会館」宿泊割引券が本山より届いております。一枚につき二名様まで室料が二割引だそうです。有効期限は平成二十八年三月末までです。(ただし十二月三十日から一月三日までは除く)ご希望の方に差し上げますので秘在寺へご連絡下さい。



三界萬霊塔

油島の豊泉さんが、いつもきれいなお花をお供えてくださいます。ありがとうございます。万霊塔はお参りする身内の絶えぬ方の墓です。どうぞ皆さんも墓参の折にはお線香を上げて下さい。

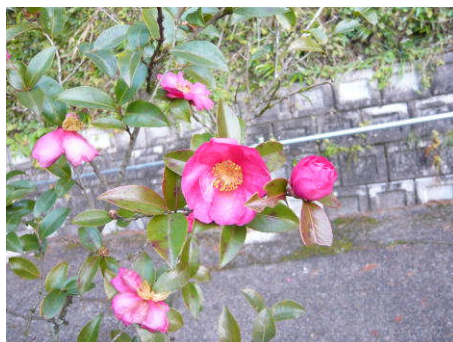
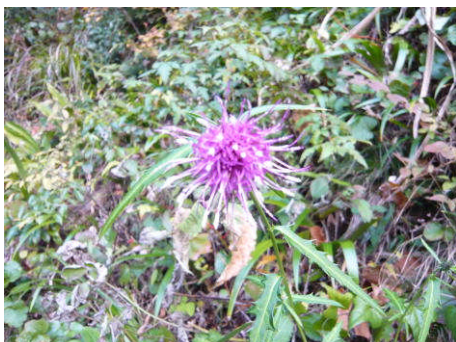


油島の望月さんが境内や駐車場のお掃除を時々して下さいます。ありがとうございます。



アザミ・山茶花

十二月十三日、日中の気温十度のなか参道にりんとして咲いており感動しました。



◆秘在寺そらの道まつり

十一月三日

九月頃から「もうじきだね、楽しみにしてるよ」という言葉かけをあちこちからいただいていたのですが、十月三日に世話人・出店関係者の皆様に集まっていた準備委員会を開きました。

長期予報では二日三日共に雨・・・今年には台風がたたられてきたからまたダメかな？と気弱になつていた寺族一同ですが、三日が近づくにつれ予報に変化が出て「大丈夫かな」と期待を持ち始めました。二日は準備中に雨に降られました。「気合いで雨を吹き飛ばせ」との一念が通じたのか、三日は一転して一日中晴天でした。

今年も昨年にも増してたくさんの方に来ていただきましたし、初めていらした方も多かったようです。売店で扱う品物の種類も増えて楽しんでいただけたことと思います。



法要参加者にはお薬師さまとご縁をいただいた証に和紙で作ったミサンガを贈呈しました。このミサンガは紙漉きグループゆうしん舎の皆様がつくって下さり、健康祈願と災難除けを祈願してあります。

独楽回し・バナナのたたき売り・南京玉すだれなどの大道芸、楽しい踊りなどステージは盛り上がり、各売店も大賑わいでした。



◆そらの道まつり慰労会

十一月十六日

昨年と同様に秘在寺本堂で慰労会をしました。参加者は三十六名、まつりの会計報告をし、当日の感想などを聞いたあとは楽しく食事をしながら地元以外の方とも交流を深めました。

静岡レクレーションクラブの指導による「ラーメン体操」、最後に住職のじゃんけんゲームでささやかな景品贈呈。

十二時から福引き開始、「特賞米十キロ」がなか出ず、最後のあたりになって「大当たり」を引いた方は三百五十人でした。



◆第三回シフクノトキ

十一月二十三日

恒例となった音楽イベント「シフクノトキ」の第三弾が開催されました。今回も静岡県内外から百名を超える方々が会場に集まりました。寒い時期なので、今回は本堂内で演奏となりましたが、寒さを吹き飛ばす熱気あふれるイベントになったと思います。



「千尋」さんは横浜より「千尋」さんと大阪からお招きしました。初めて女性の歌い手を感じました。流す方もいらつしやいます。私たちがスタンプも女性ならはの力、そして癒やしの驚かされまし。また、少い合わせですが、檀信徒の皆様からもお問い合せや反響の声をいただきました。嬉しく思います。次回には五月下旬予定しています。暖かい時期なので境内にたくさんのお店も出したいと考えています。

→ タミーさんのステージ

この賤機地区を盛り上げたいと頑張ってくれているスタッフにはいつも頭が下がります。



とんがり屋根のテントは子どもたちの遊び場です。親子連れの姿も多かったです。

千尋さんのステージ

アンコールに次ぐアンコールでずいぶん遅くまで歌って下さいました。



◆寺庭の被災地慰霊の旅

十月十五、十七日、宮城県松島で御詠歌大会が開催されました。第六十四回全国奉詠御詠歌大会で震災復興祈念大会とサブタイトルがついています。寺庭の博子が十五日に他の寺庭さんと合同で登壇してきました。その折りせつかく被災地に行くのだから、一泊余分に宿泊することにして、登壇日前後に被災地を巡ってきました。住職も副住職もそれぞれに被災地を訪れています。私は初め

被災地では現地を案内してくれるタクシイがあるの、それを利用してました。一日目に仙台に行き、四時間かけて七ヶ浜、閑上、荒浜などを巡りました。港付近の工業地帯はすっかり被災の面影がないの

に、海岸地帯の住居跡は土台しか残ってばいらないところに、セイタカアワダチソウと想像するのが難しかったです。

御詠歌大会登壇を終え、翌日は松島湾を船で遊覧し、船上で「東日本大震災供養御和讃」をお唱えしました。その後松島から石巻に向かい、大きな被害にあつた地域をたどりまし。一言で言うとなら無常と無力を感じた旅でした。タクシーの運転手さん自らが、津波に襲われて九死に一生を得た方だったので、女川病院でその時の様子を話してくれました。大川小学校、更地になって土が盛つてあるだけの雄勝病院など、その地に立つと言えない悲しい気持ちになりました。この気持ちを忘れてはいけません、そしてささやかでもいいから役に立てることはできないか、考えています。ホームページ「あしたの庵」に詳しい報告を載せてあります。

※ 寺庭（「じてい」）正式には寺庭婦人）は和尚の妻のことを言います。

大川小学校

お花を供えて読経してきましたが、悲しみで満たされた重いな気分でした。運転手さんの友だちもお孫さんを亡くされたそうです。



女川の浜で見た横転した建物。向かって右側が地面に接して液状化した部分です。液状化現象のせいではないかとのことでした。この建物の左に小さく見えるのが、女川病院で、あんなに高いところにあるのに、一階の途中まで津波が入り、駐車場にいた人たちも波にのまれたそうです。

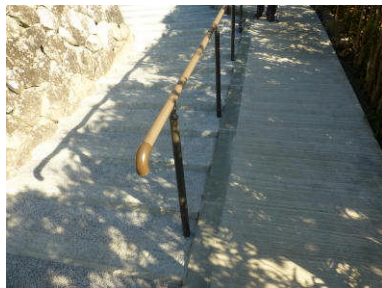


十七名の職員が亡くなった。この銀行の跡です。この辺りにはおんまえやというスーパーもあって、社長さんや店員さんも流されたそうです。それにしても二階建ての銀行やスーパーがあつたなどは、ません。そのくらいもう何もありません。

◆臨濟寺 成道会

十二月八日

成道会（じようどうえ）は三仏忌の一つで、お釈迦様が明けの明星を見て悟りを開いた十二月八日に行われる法要です。臨濟寺の成道会には例年住職・副住職と共に、寺庭も御詠歌会員さんと一緒に参加して、寒さもやみ、風のない晴れた日は寒さもやみ、風のない雲水さんたちの動きの美しい響きに包まれ、大勢の和尚様たちのお経の響きに包まれます。心が洗われ清々しい気持ちになります。



臨濟寺は工事中ですが、姫階段も改修され、車いすでも上れるような坂と、さらに浅くなった階段になりました。

◆イノシシ

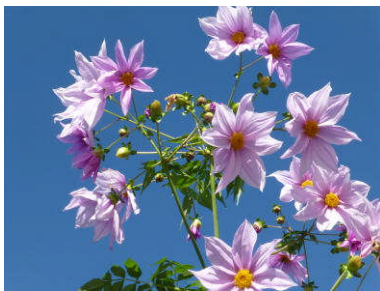
十月後半からイノシシが出没し始めました。秘蔵寺の回りをあちこち掘り返してあり、道の芝生が大きくなりました。それだけでも回りました。



◆御詠歌コンサート

コンサートと名づけるのはちよつと気が引けますが、一月二十五日に「安倍ごころ」で御詠歌の簡単な発表会を開きました。静岡東教区や本山の一般の人が見る大会は、会員対象のため、支部では少人数ながら、落慶法要の時に、尺八伴奏と舞を添えた「慶祝御和讃」を奉詠した。込んできました。

今回は他の寺院の寺庭さんの協力もお願いし、六曲披露致します。鈴鉦の動きのおもしろい「延命地藏御和讃」と「西国札打ち御和讃」、所作と呼ばれる「前記の「慶祝御和讃」など飽きずに聴いていただくような工夫しました。衣装も工夫しましたので是非お誘い合わせの上、ご来場下さい。引き続き午後一時から邦楽アンサンブル「邦友会」のコンサートの方も致します。十二時開始です。遠方の方はお弁当持参で安倍ごころにいらして召し上がったらいかがでしょうか？ チラシを同封致しました。



安倍ごころの皇帝ダリア
きれいでしたね